

大使からの活動報告(2014年9月中旬～10月上旬)

在グアテマラ日本大使館
大使 川原 英一

◎秋篠宮同妃両殿下の当国御訪問

グアテマラ政府の招きにより、9月30日から10月3日まで当国にご滞在され、この間に、大統領官邸でのペレス・モリーナ大統領との会見、同大統領夫妻主催の晩餐会に臨まれました。10月1日、ポポルブ博物館・イシュチュエル民族衣装博物館、日本人学校を御訪問、JICA 協力隊員・専門家、在留邦人の方にお会いされました。同2日は、元文部科学省留学生の会の役員、技術協力スキームの下で訪日経験のある研修生組織の役員とお会いされました。

秋篠宮殿下は、グアテマラ市内にあるサンカルロス大学附属植物園、紀子妃殿下は、同じく市内にある全国小児がん病院をそれぞれ御訪問されました。また、マヤ遺跡のスーパースターとされるグアテマラ北部にあるティカル遺跡、さらには、もう一つの当国ユネスコ世界遺産であるアンティグアも訪問されるなど、多忙な日程をこなされて、10月3日夕、次のご訪問地メキシコに御出立されました。

当国訪問は、1997年9月の常陸宮同妃両殿下のご訪問に次ぐ2回目、17年ぶりの御訪問となりました。今回のご訪問により、両国の友好親善が促進され、来年に外交関係樹立80周年に向けての大変良いスタートとなったように感じました。

◎当地メディア報道 以下の例にありますように、御訪問前から当国主要紙が、日本特集を組んで好意的に掲載し、大統領府インターネットTVなど両殿下の当国訪問を連日報じました。



◆両殿下の当国御訪問の際、当国での御活躍が注目された方を御二人ご紹介いたします。

まず、金沢大学の中村誠一教授(左下写真:右端から二人目の方が中村教授、同じく、左から3人目が、ペサロッシ文化スポーツ大臣)です。同教授は1980年代から中米ホンジュラス、グ



アテマラなどでマヤ遺跡の研究をされてこられました。

最近10年は、グアテマラのティカル遺跡などの研究

・保存活動をする傍ら、文化省の考古学職員の人材育成・研修に関与されておられました。母校金沢大学は、中村教授をサポートする形でティカルプロジェクトを同大学の看板プロジェクトの一つとして支援されています。両殿下のティカル訪問の際、中村教授のご案内で遺跡を巡り、遺跡研究の成果などのご説明を非常に興味深く感じられて、ご質問を盛んに行っておられました。

もう御一方は、わが国がグアテマラで実施している「子供達の算数能力プロジェクト」など教育分野で10年近く携わってこられ、現在、当国教育省にJICAから派遣されている河澄さつき専門家(右写真:右側)です。当方公邸での内輪夕食の際に、両殿下は、当国の子供達が日本と当国の小学校教師が共同開発したテキストで学んでいるとお聞きになり、当国小学校算数教科書が大変に興味深く、ご覧になっておられました。



◆3大商社合同調査団の当国派遣



9月中旬、住友商事、伊藤忠、丸紅の三大商社の人事部などが、勤務環境について調査のため来られて、当方がお会いしました。5年ぶりの調査団派遣であったそうです。懇談では、当国の政治・経済、治安、ビジネス、生活環境などについて当館から情報提供を致しました。当地駐在の住商事務所長、丸紅事務所長も御同席されました。

◆帰国協力隊員との懇談

9月末に任期満了となる協力隊員4名がご挨拶に来られました。栄養改善、母子の健康プロジェクト、野菜栽培指導、野球指導の隊員の皆さんです。各地での隊員の御活躍の様子を



いろいろとお伺い致しました。母子健康プロジェクトでは、地元の方々への啓発用ビデオが最近作成されたと伺いました。

■バチカン大使公邸



当国外交団の中で、バチカン大使は在勤年数にかかわらず、外交団長として特別な配慮がされています。大統領が出席する会合・行事などで、最上席が提供されます。バチカン大使公邸での恒例行事となっていますのは、各国大使が離任する際には、バチカン大使公邸に各国の大使夫妻が招集されます。

同公邸で送別行事が毎回行われる大サロンの四方の壁には宗教画が掲げられており、大変にすばらしく、立派なものがあります。写真は9月にありましたキューバ大使夫妻の送別の会合の際のものです。



◆国立交響楽団とフネス・マリンバ楽団との合同公演:



といった映画音楽、クラシック曲などが演奏されました。

国立劇場の舞台の照明・演出(写真のように背景が鮮やか)が、とても鮮やかな色彩のものであったことと、観客の反応がとても良く、演奏が始まるたびに手拍子が始まるなど、見ていて大変に楽しい内容の公演でした。

◆独立記念日(9月15日)

9月15日には、スペインからの独立を記念するパレードが首都の国立文化宮殿前広場で行われました。



各地から参加した高校などのマーチングバンドが、この日のために用意した衣装に身を包み、午前中、練り歩いていました。1821年9月15日、グアテマラ総監領(現在のグアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカの中米5か国)は、独立宣言と共に宗主国スペインから独立しました。独立して中米連合となりました。というわけで、中米5か国ともに同じ日が独立記念日となっています。



◆観光庁長官への表敬

9月下旬、ペドロ・ドゥチェス観光庁長官(左下写真:右側人物)への御挨拶の機会がありました。当方からの質問に対し、観光促進の上から、グアテマラへの空・海の連結(connectivity)を向上していくことが最大の課題であるとの答が返ってきました。



欧州各国とグアテマラを結ぶフライトには、航空会社一社による独占ルートがあり、航空運賃が高止まりする傾向があるので、航空賃を引下げるよう当該航空会社に働きかけを行

っている由。いつも満席のフライトで、運賃が割高に設定されて、観光客にとっては、航空賃が大きな支出割合をしめていることから、現在、航空会社に運賃値下げ交渉を行っているのだそうです。

日本との間には直行便がないのですが、日本と隣国メキシコとの間で直行便が飛んでいること、メキシコとグアテマラ間の航空便数は多いので、同長官から、今後、日本の観光客誘致に努力してみたいとの発言がありました。なお、観光庁の活動財源は、ホテルなど宿泊施設を利用した際に徴取される観光税の一部により賄われています。同長官は、当国にあるユネスコ世界遺産地での宿泊設備や観光客へのエンターテインメントを今後充実したいとの抱負も語って下さいました。(了)